

昨秋の台風・大雨被害で800万円相当を支援

福島、栃木、千葉、長野各県の学校に

2019年秋の台風で被災した学校を支援するため、ベルマーク教育助成財団は福島、栃木、千葉、長野の4県の被災校に対し、総額800万円相当の緊急援助を決定、現在作業中です。

9月に上陸した台風15号は、千葉県などで50前後の強風を記録しました。10月に上陸した台風19号は東北・関東甲信越の広い範囲で大雨となり、多くの河川が氾濫しました。財団では緊急友愛援助を呼びかけ、12月の締切までに63万4229円が寄せられました。

これに財団資金を加えて支援額を決めました。

財団では被害の大きかった県の教育委員会などに被害の内容をヒアリングした結果、福島県で小学校12、中学校4、栃木県で小学校6、中学校3、特別支援学校1、長野県で小学校2、中学校3を支援することにしました。それぞれ、学校に必要な備品などを購入してもらいます。なお千葉県では3月10日現在、まだ被災度の調査が終わっておらず、支援校は未定です。

支援が決まった学校は以下の通りです。

【福島県】郡山市 赤木小、永盛西小、小泉小▽伊達市 小国小、霊山中▽相馬市 中村第一小、桜丘小、中村第一中、向陽中▽いわき市 平第二小、平第四小、好間第一小、好間第二小、小川中▽川俣町 川俣小、飯坂小

【栃木県】栃木市 栃木第五小、大平西小、栃木西中、寺尾中、栃木特別支援学校▽鹿沼市 清洲第一小、粕尾小▽下野市 石橋中▽佐野市 氷室小▽小山市 中小

【長野県】長野市 長沼小、豊野中、東北中、松代中▽須坂市 豊洲小

「にじの風プラン」被災校に備品贈呈

愛知・瀬戸市で統合直前の7小中学校



①式に参加した矢本東小の子どもたち
②贈呈品の目録を読み上げる祖東中生徒会長の加藤吉愛さん
③矢本東小では、7校からの贈呈品が机上に並べられた

愛知県瀬戸市で今春統合される7つの市立学校(祖母懐小・東明小・古瀬戸小・深川小・道泉小・祖東中・本山中)が東日本大震災被災校支援のため一緒にベルマークを集めていた「にじの風プラン・7校の力をひとつに!」。この活動で購入した備品が、このほど宮城県の東松島市立矢本東小学校(仲上浩一校長、児童478人)に届けられました。

2018年4月の始動から積み上げた点数は9万点超。これに各校の預金を加えた12万円で、電子ミシンとライン引き各2台、ソーラーストップウォッチ1

個を購入しました。

矢本東小は震災で校区の半分が津波の被害を受けました。「建物の復興は進みましたが、子どもたちの心のケアはまだ」と三浦資子教頭は話します。

贈呈式は1月27日、矢本東小と、贈った7校を代表して祖東中とをビデオ通話でつないで開かれました。祖東中の早川寿校長の挨拶のあと、生徒会長の加藤吉愛(よしたか)さん(2年)が目録を読み上げました。矢本東小からは、児童会の計画委員や三浦教頭らがお礼の言葉を述べました。

矢本東小を訪れて司会を務めた瀬戸市のコミュニティーFM「ラジオサンキュー」パーソナリティー・高橋智子さんは、以前から同小にマークを送り続け、「にじの風プラン」のきっかけを作りました。「一枚一枚のベルマークが力を合わせるとうなるか、子どもたちに分かってもらえて良かったです」。今回も番組などで集めた6833.5点のマークとインクカートリッジを持参しました。

プランの発起人で、祖東中で読み聞かせ活動をする伊藤由美さんは「地域みんなで協力すれば、一つのことができると

気付きました」と話しました。

祖東中以外の6校はビデオレターを作って届けました。陶磁器の産地らしい焼き物にまつわる行事の紹介や、小学1年生による「パプリカ」ダンスなど盛りだくさんで楽しい内容でした。

矢本東小の三浦教頭は「児童、保護者、先生がそれぞれの学校を大事にし、思いを込めて集めて下さいました。子どもたちが何かできることで、お礼を伝えたいです」と語りました。

瀬戸市の7校は、4月開校の小中一貫校「にじの丘学園」に統合されます。

児童がマークを集めて被災校に寄贈

東京・多摩市立南鶴牧小、仕分けも自分たちで

昨秋の台風15号で被災した千葉県の学校に役立ててもらいたいと、東京都多摩市立南鶴牧小学校(関口寿也校長、児童526人)の児童たちが1万3000点余のベルマークを集め、館山市立船形小学校(阿部庸一校長、126人)に寄贈しました。

きっかけは昨秋、4年生以上でつくる代表委員会が設置していた意見箱に「台風被害に遭った千葉の人に向けて募金活動をしたい」という投書が入っていたことでした。委員会で話し合った際、「募金は保護者からお金をもらう形になり、子どもたちが集める活動にはならない」と考えた担当の鶴田昭彦先生の勧めもあって、ベルマークで支援することを決めました。

18人の委員たちは、全校集会や朝の会などでマーク収集を呼びかけました。被災地の様子も自分たちで調べ、

タブレットを使って説明したそうです。回収日も委員が箱を持って教室を回りました。寄贈先の学校に迷惑をかけないように、仕分け・集計も子どもたち自身で実施。集まったマークは1万3311点でした。館山市教育委員会を通じて寄贈先に船形小を選び、今年2月はじめ、財団を通してマークを贈りました。

船形小は台風でサッシのすき間から雨水が入り、2・3階の教室の床が水びたしに。図書室の本も濡れてしまったそうです。市の給食センターも被害を受け、その後は簡易給食が続いていました。阿部校長は「ありがたいです。本校で集めた分と合わせ、子どもたちのために使っていきたい」と話しました。

南鶴牧小には、船形小でベルマーク活動を担う児童の委員会と阿部校長からの、お礼の手紙が届きました。

